

# 令和七年 第二十七期くまもと俳句ポスト

## 第二十七期開函

「ホトトギス」同人 山下 しげ人 選

### 特選

大阿蘇の地軸ゆすつて野火猛る 熊本市 佐藤 誠吾

### 【講評】

数週間にわたって行なわれる阿蘇の山焼きは、火の国熊本に春を告げる一大風物詩です。古代より続いている山焼きを目の当たりにすると誰しも言葉を失うほどの感動を覚えます。音を立て風を巻上げながら奔る野火を「地軸ゆすつて」と表現したことで、壮大な阿蘇の山焼きと作者の感動の大きさが素直に伝わってきます。

### わが輩通り賞

漱石の庭の夏木に天気雨 東京都国分寺市 神野 純

### 入選

夕暮れの水路に翡翠滑り来る 熊本市 中村 和徳

梅雨晴れの四時軒の風ほほを過ぐ 熊本市 野白 仁美

花合歡の彼方に舍利の塔望む 熊本市 坂口 美穂子

### 佳作

四時軒にけふは水馬訪ねけり 熊本市 後野 陽

猫和む坪井の家には春日和 熊本市 永野 倖大

吟行の脚に噛みつく江津湖の蚊 熊本市 岩木 靖子

桃香るいつもと違う散歩道 熊本市 干場 幸純

亡き友や姿探して梅畑 熊本市 徳永 恵美子

美少年瞳の奥の散る桜 熊本市 宇野木 邦子

春泥や十五で散った田原坂 福岡県柳川市 平山 繁嗣

田原坂義に落ちゆくは桜かな

愛知県蒲郡市

守屋 紀生

緑さすかの日も同じ田原坂

宮崎県宮崎市

榘谷 昌子

為朝の伝説の山鳥帰る

熊本県熊本市

柳田 孝裕

投句総数 百三十三句

市内 六十九句

市外 六十四句

開函日 令和七年六月三十日